

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水 1F		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成28年7月27日	評価結果市町村受理日	平成28年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2274202494-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺めることができる静かな環境の中にあります。また、公共機関にも恵まれており最寄り駅から徒歩5分のところにある施設です。運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのかコミュニケーションを図り、職員と話し合い、その方が望んでいることを個人企画として1対1の行事を実施しております。事業所内で週に一度の自主勉強会を行い職員の疑問点などの解消やケアについてのスキルアップなどによる取り組みをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気のいい市井の奥さん集団といったざっくばらんな空気がフロアに流れるせいか利用者が安心して様子が見え、壁面の折り紙や手作りカレンダー、トイレの手すりの防護テープ、家庭菜園の夏野菜などに利用者への優しい気持ちが現れています。複数名の職員から「勉強したい」と声が挙がったことを契機に、現場の疑問を解消する所内勉強会がスタートしていることから、職員の誠実さが受けとめられます。さらに管理者のアプローチで「防災訓練の参加、が叶い、祭りの「福引券利用」、事業所納涼祭では町内会がテーブルや椅子の貸し出しとともに運搬まで協力くださる等、地域とのつながりが進んだことが本年度の大きな成果です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため年間目標を立て実行できるように年間計画をたて意識を高めるように努めています。また、毎朝、申し送りにて理念を唱和しています。	法人理念に基づき事業所目標をたて、実践につなげるよう努めています。本人、家族との意思疎通が要となるため、その度合いが計画立案～実現に格差を生むことが当面の向上課題となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練の参加や毎年行われている、どんど焼きの参加、また同じ地区内の太鼓の方との交流、納涼祭のときは自治会へ依頼し回覧板を回していただき地域の方への参加を呼びかけています。	どんど焼きでは昔懐かしい汁粉に舌鼓を打ち、祭りの福引券も届けられて地域とのふれあいを愉しんでいます。また事業所納涼祭では町内会がテーブルや椅子の貸し出しとともに運搬まで協力くださる等、つながりが進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告を行い意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。	平日の昼間開催ですが家族の出席もあり、月1回の行事企画の様子をスライドショーにして喜ばれています。毎回の議題には思い悩むところですが、年度末に翌年計画を立てて周知をおこない、参加率アップにも気を配っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。	事業所では静岡市葵区役所へ運営推進会議の案内と前回の議事録を郵送しています。うっかり洩らすことがあると、担当者から「今回きてませんよ」とフォローしてもらえ、助けられています。地域包括支援センター主催のグループホーム連絡協議会にも出向き、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し身体拘束は守られているが、声掛けに於いては些細なことで拘束の値に近い言葉が聞かれることがあり注意をすると共に勉強会を行っている。また、夜間以外は玄関の施錠をせずついて関わりを持つようして所在確認を意識するよう努めています	現状拘束が必要な状態の利用者はいませんし、マニュアルをはじめ研修や係る書式は本部で整えられています。スピーチロックへの改善向上と職員のメンタル面は気がかりとして、特に人間関係に管理者が心配りし、シフト調整にも余念がありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の会議にて声掛けについて学ぶ機会をもち小さなことから意識付けに努めている。また日々のケアの中で身体観察等を行い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い不明点は具体例を上げて理解していただいた上で契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見を述べやすいように普段より声掛けに努めている。また頂いた意見は職員全員が共有できるように申し送り時や会議等を利用し要望に近づけるように努めています。	「(利用者のADL低下に伴い)事業所の納涼祭が少し寂しくなった…」との家族意見から、「本部に提灯購入の申請、をおこない、町内会長に相談して「吉川太鼓の召致、」"バザー導入、といったメニューにも大幅なテコ入れをおこない、要望に応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会で職員からの意見や提案を聞く機会や話し合いを設けている。また本部会議での提出用紙に提案事項の欄があり活用できる仕組みがあります。	複数名の職員から「勉強したい」と挙がった発言を管理者がとりまとめ、現場の疑問を解消する所内勉強会としてスタートさせています。庭でキュウリを育てたり、掲示に折り紙を取り入れたりと、職員が自発的に取り組む例が幾つかあり、自主性が感じられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に応じて勤務体制に無理なく勤められるように対応しております。また自己評価が年2回あり振り返りができる機会を設けてます。他、年に1度社員表彰を実施し向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施しております。また、定例会を利用して事業所内での研修に努めてスキルアップに努めております。事業所内も週に1度の自主勉強会を設け自発的に取り組む環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域グループホーム連絡会などに参加しサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っていること、不安に感じていること等アセスメントし入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況、困っていること不安に感じていること、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか話し合うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めて施設での生活が適しているのか話し合い安心して利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味あることが実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が気軽に面会に来られる環境づくりに努め、ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気楽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。	携帯を持つ2名の利用者は随時直接家族と連絡をとっていますが、他の人たちに関しても職員が橋渡し役を担い、年末年始での帰省のほか親族の結婚式出席と、これまでの関係を続けることができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできることを把握し職員が間に入り役割を見つけ利用者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで来られたり必要に応じて相談・支援がいつでも、できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努めています。	担当制を敷いていますが狎れあいにならないよう年度毎に職員を替え、理念の『生き生き生きる』の実現に向けて一つひとつの取組みについて検討しており、華道を嗜んでいた人に生花を渡したところ表情が一変した、との例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等でなるべく多くの情報収集を行い、日々の関わりの中で、ご本人やご家族様から得た情報は職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノート、毎月の定例会を利用して今の状況を把握し、その時の対応変化に対応できるように周知徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。	職員間のカンファレンス情報を基盤に原案をつくり、改めて職員に周知して合意形成した後、家族の承認を得て完成させています。また、実費利用のマッサージ師は今後の担当者会議に参加下さる見込みで、介護計画書に何らかの拡がり期待されています。	介護計画書への理解が標準化されるよう、取組みがあることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけ医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。	在宅の頃からのかかりつけ医を継続する人もいますが、大半は協力医に変更しており、どちらであっても職員が通院介助をおこなっています。医療記録については面会で共有できているため、家族からは「助かる」との声が多く聞かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護があり日常の状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方の報告、相談し医療との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとりスムーズに対応できるように連絡を密にとるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いてはご家族や主治医等と相談しながら終末期についての話し合いをして情報の共有を行い支援に取り組んでいます。	24時間対応の協力医の応援を以て本年度1名を無事見送ることができました。精度への危惧や、終わってみて「これでよかったのか」と焦燥が交錯しつつも、「通夜には事業所での写真が飾られていた」「家族から感謝の言葉をいただいた」と、家族の感謝が支えとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に基礎研修があり全職員が研修を受けている。また定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練等によって指導しています。地域の防災訓練にも参加させていただいています。	地域連携に向けアプローチをおこなった結果、管理者のみですが防災訓練への参画が叶い、大きな一歩となっています。所内では夜間・総合と種類を替えて年3回実施しており、水消火器や職員のメール配信とやるべきことは揃えられています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉かけは、お互いに意識し勉強会等で再確認できるような場を設けています。	一昨年の課題であった「整容」については朝礼の申し送りに定着させ向上しており、年一回の個人面談では言葉遣いの振り返りや留意点の確認も併せておこない、また本部の接遇訓練も繰り返され、「気づき」を促すための工夫があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所目標である個人ケアをもとに日常生活の中で、その方の希望や願いを情報収集して個人企画として実行をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、その日の過ごし方を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような気配り、声掛けをするように心掛けてます。 また、外出時などお化粧の支援などできるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じて食事の下準備や片付けをしていただいています。	本部作成の同じ献立を1階、2階各々の職員が調理していますが、月数回の「お楽しみメニュー」では各階趣向を凝らして別々の内容として愉しんでいます。誤嚥のリスクのある人には職員が一口毎とろみを加え、声をかけて支援していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき一人ひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを、ご本人に行っていた後、確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	「新聞紙でくるむのを忘れてしまうので～」との本人からの申告により蓋付のゴミ箱が用意されたり、頭をぶつけがちな人のために手すりに防護テープが巻かれるなど、快適な排泄行為ができるようにとの取組みがみられます。	1階フロアに限り、場合により排泄臭が感じられるため何等かの改善を期待いたします。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトの提供と砂糖ではなくオリゴ糖を使用しております。また習慣化している体操を取り入れ予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。	「一番風呂に入りたい」要望に応える一方でかけ流しであることから、水虫等感染が心配される人は最後に入浴してもらっています。頻回に入浴を希望する利用者には、可能な範囲で対応し、また拒否には浴室まで会話をもつなどして緩和しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握して、眠れない日などは共に過ごして精神的に安心して眠れるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画を立て一日掛けての外出をし日常では味わえない体験を楽しんで頂いています。また、個人ケアにて対職員で外出支援をしています。	担当の職員とでフェイスマッサージの施術を受けに出かけたり、買い物、水族館と個別でのお出かけが増えています。利用者の外食はレクリエーション費でまかない、職員は自己負担ですが、職員は前向きに協力しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買物の要望があるときは一緒に買物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、計画を立てて、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で絵や装飾品での季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる掲示物を手作りしています。	畳スペースをテレビや扇風機エリアとして、足元に物が無く動線をすっきりとさせています。折り紙作品や手作りカレンダーが飾られ、清掃も行き届いています。清掃は「拭けなくても、絞った雑巾を持つことまでは～」との姿勢で、利用者と一緒にすることも大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	水彩画の得意だった人には家族が折々に作品を掛け替えており、机上には堂々とした絵筆立てもあります。テレビ、仏壇、冷蔵庫が持ち込まれ、庫内に麦茶を常備している人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水 2F		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成28年7月27日	評価結果市町村受理日	平成28年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2274202494-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺めることができる静かな環境の中にあります。また、公共機関にも恵まれており最寄り駅から徒歩5分のところにある施設です。運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのかコミュニケーションを図り、職員と話し合い、その方が望んでいることを個人企画として1対1の行事を実行しております。事業所内で週に一度の自主勉強会を行い職員の疑問点などの解消やケアについてのスキルアップなどによる取り組みをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気のいい市井の奥さん集団といったざっくばらんな空気がフロアに流れるせいか利用者が安心して様子が見え、壁面の折り紙や手作りカレンダー、トイレの手すりの防護テープ、家庭菜園の夏野菜などに利用者への優しい気持ちが現れています。複数名の職員から「勉強したい」と声が挙がったことを契機に、現場の疑問を解消する所内勉強会がスタートしていることから、職員の誠実さが受けとめられます。さらに管理者のアプローチで「防災訓練の参加、が叶い、祭りの「福引券利用」、事業所納涼祭では町内会がテーブルや椅子の貸し出しとともに運搬まで協力くださる等、地域とのつながりが進んだことが本年度の大きな成果です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため年間目標を立て実行できるように年間計画をたて意識を高めるように努めています。また、毎朝、申し送りにて理念を唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練の参加や毎年行われている、どんど焼きの参加、また同じ地区内の太鼓の方との交流、納涼祭のときは自治会へ依頼し回覧板を回していただき地域の方への参加を呼びかけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告を行い意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し身体拘束は守られているが、声掛けに於いては些細なことで拘束の値に近い言葉が聞かれることがあり注意をすると共に勉強会を行っている。また、夜間以外は玄関の施錠をせざるに関わりを持つようにして所在確認を意識するよう努めています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の会議にて声掛けについて学ぶ機会をもち小さなことから意識付けに努めている。また日々のケアの中で身体観察等を行い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い不明点は具体例を上げて理解していただいた上で契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見を述べやすいように普段より声掛けに努めている。また頂いた意見は職員全員が共有できるように申し送り時や会議等を利用し要望に近づけるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会で職員からの意見や提案を聞く機会や話し合いを設けている。また本部会議での提出用紙に提案事項の欄があり活用できる仕組みがあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に応じて勤務体制に無理なく勤められるように対応しております。また自己評価が年2回あり振り返りができる機会を設けてます。他、年に1度社員表彰を実施し向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施しております。また、定例会を利用して事業所内での研修に努めてスキルアップに努めております。事業所内も週に1度の自主勉強会を設け自発的に取り組む環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域グループホーム連絡会などに参加しサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っていること、不安に感じていること等アセスメントし入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況、困っていること不安に感じていること、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか話し合うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めて施設での生活が適しているのか話し合い安心して利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味あることが実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が気軽に面会に来られる環境づくりに努め、ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気楽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできることを把握し職員が間に入り役割を見つけ利用者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで来られたり必要に応じて相談・支援がいつでも、できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、日々の関わりの中で、ご本人やご家族様から得た情報は職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノート、毎月の定例会を利用して今の状況を把握し、その時の対応変化に対応できるように周知徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけ医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護があり日常の状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方の報告、相談し医療との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとりスムーズに対応できるように連絡を密にとるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いてはご家族や主治医等と相談しながら終末期についての話し合いをして情報の共有を行い支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に基礎研修があり全職員が研修を受けている。また定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練等によって指導しています。地域の防災訓練にも参加させていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉かけは、お互いに意識し勉強会等で再確認できるような場を設けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所目標である個人ケアをもとに日常生活の中で、その方の希望や願いを情報収集して個人企画として実行をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、その日の過ごし方を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような気配り、声掛けをするように心掛けてます。 また、外出時などお化粧の支援などできるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じて食事の下準備や片付けをしていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき一人ひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを、ご本人に行っていた後、確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄や失敗による不快の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトの提供と砂糖ではなくオリゴ糖を使用しております。また習慣化している体操を取り入れ予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握して、眠れない日などは共に過ごして精神的に安心して眠れるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画を立て一日掛けての外出をし日常では味わえない体験を楽しんで頂いてます。また、個人ケアにて対職員で外出支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買物の要望があるときは一緒に買物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、計画を立てて、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で絵や装飾品での季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる掲示物を手作りしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		